を察すべきなり。菊版三〇〇頁、（奉公會發行　價一、〇〇）〔中村〕

◉滿鮮歷史地理報告第一　第二　文學博士　白鳥庫吉監修

數年前南滿洲鐵道會社が滿韓地方の根本的研究をなすの要あるを認め白鳥博士に滿韓史の調査を委託せし結果、博士の監督の下に箭内松井池内岩田津田の諸氏熱心に研究し數卷の調査報告書公刊せられて學界に莫大の利益を與へたるは吾人の記憶に新なるものなり。然るに右調査事業たるや同會社の事業としては多少の不便ありしが故に、同社は一定の經費を東京帝國大學に提供し、同大學にて事業を繼續せんことを希望せしを同大學應諾して更に箭内池内松井の三文學士及津田氏に囑託して昨年一月より滿洲及朝鮮に於ける地理歷史の調査に從事せしめ、其成績は調査の成るに從ひ滿鮮地理歷史研究報告として大學より公刊するに至れり。今回刊行せられたる本書は其第一第二にして第一卷には津田氏の勿吉考室韋考、安東都護寺府、渤海考、及び松井氏の契丹可敦城考附阻卜考と可敦城及阻卜位置圖を收め、第二卷には津田氏の遼代烏古敵烈考、達慮古考、箭内氏の金の兵制に關する研究、池内氏の鮮初の東北境と女眞との關係（一）と烏古及敵烈位置圖、混同江附近圖とを收む。何れも眞摯なる研究の結果たる有益なる論文なり、余輩は斯る事業が大學の手に移りて繼續せらるゝを深く慶賀するものなり。（東京帝國大學發行）

◉魏書地形志校錄三卷　溫日鑑撰

魏收の魏書は古來機史の譏を受けしを以て、その地形志の如きも顧みざる人多けれども、同志は兩漢書の遺法を承け、兼て古迹を載せ、後代史志の專ら沿革を錄する如きに非ざるを以て、古地志の研究には缺ぐべからざるものなり。然るに收は本と齊人なる故東魏に詳かにして、西魏大統以後は概ね著はさず、又淪陷諸州の戶は東西兩魏の未だ分れざりし以前の永熙の官籍に據れり。されば記事の精粗純駁一ならず。依て清末の溫日鑑（字は鐵華）は歷代正史の地志、水經、元和郡縣志、通典、太平寰宇記、九域志、通鑑注等より方輿紀要其他清人の諸說を採りて精密なる校合を施せり此書は世に校異又は集釋として知られしが、今般拾香草堂原稿本を得、校錄と名けて刊行せり。されば之に依て監本の疎漏、毛本の舛錯を糾し、拓跋一朝の紛如たる地志を明かにすべきのみならず、又以て古史の研究に便益を得べきこと決して尠少ならず。

◉文館詞林二十九卷　許敬宗等撰

此書は唐高宗の朝許敬宗等が勅を奉じて撰み顯慶三年に成りて一千卷となして上り、我國には既に弘仁以前に傳はりしが、其後次第に亡佚して多く世に知られざりき。其後林述齋佚存叢書に此書の

卷六六二・六六四・六六八・六九五を收めそれが清に傳はりし時兼て彼土にては宋以來全く詞林を見るを得ざりしかば大に學者を驚かし、孫星衍は之を續文苑に引き、阮元は四庫未收書目中に列せり。明治十七年公使として我國に來任せし黎庶昌の隨員楊守敬は熱心に殘存を搜索し同卷一五六・一五七・一五八・三四七・四五二四五三・四五七・六六六・六六七・六七〇・六九一・六九九の十二卷を得て古逸叢書に刻入し、後楊葆初又卷一五二・一五八（目次のみ）三四六・四一四・六六五・六六九の六卷を刻し、更に董康は已刻の外卷一六一、三四八（殘卷）・六六四（佚存の後半）外殘卷等を得たり。本書は是等全部二十九卷（整卷二十五・殘卷四）を合刻せるものにして中に西漢文四・東漢文二五・魏文一七・晉文九一・宋文三三・齊文二三・梁文六五・陳文三・北魏文一四・北齊文二〇・北周文七・隋文二四・唐文三三・後梁文三合計詩文三四七篇あり。其史學文學に益するとの著大なる固より論を俟たず。

◉魯春秋一卷　查伊璜撰

本書は明末魯王が弘光元年張・維・張煌言等に擁立せられて監國の位に卽きてより、水陸轉徙具さに艱苦を嘗め、後鄭成功に助けられて臺灣に入り遂に病を以て金門に薨ぜし迄十五年間の事蹟を記せるものにして書中明末義士の傳を詳載し日本に乞粟のことなどをも錄せり。著者查繼佐伊璜は張煌言の幕中に在りて學識あり其際國事に奔走せし人なればその記事の精確なるは勿論なり。附錄北征紀略一篇は張煌言が自己の戰中に於ける經歷を叙せるものにて、同使臣碧血は左懋第の清廷に使して屈せず先きに清に降りし洪承疇等を罵り遂に節に死せしことを記せり。

◉內閣藏書目錄八卷　孫能傳張萱等撰

明の永樂の間、南京の藏書を取りて北京に送り、又禮部尚書鄭賜に命じ四出して購求せしむること十九年、これを文淵閣に貯へたり。所謂鏤板十三、鈔本十七は正統の時尙完善闕くるなかりき。此時千字文を以て排次して書目を作りしが、天字より往字に至り凡二十號五十櫥を得たり。世に傳本なきもの往々此目に見え、其儲庋の富を知るに足る。萬歷中孫能傳等に命じ重れてこの書目八卷を作る。第一は聖製部典制部、卷二は經史子三部、卷三は集部卷四は總集・類書・金石・圖經部、卷五は樂律・字學・理學・奏疏部卷六は傳記技藝部、卷七は志乘部、卷八は雜部。正統の書目に較ぶれば十の一を存せずと雖、歷朝編撰の書を加入し、書後成書の年代と撰人の姓氏とを錄し、間々解題を附し、略詳備せり。書末に記して云ふ、萬歷三十三年歲在乙巳、內閣敕房辦大理寺寺副孫能傳、中書舍人張萱、秦焜、郭安氏、吳大山、奉中堂諭校理井纂釋と。其後內閣の書は散佚せしもの少からざりしかど、宣統元年

大庫を修葺せし時閣内の貯藏二萬餘册を發出せしに尙此書目と相印證するに足りしといふ。此書は四庫に收めず刻本罕なりしが今人月雙清閣、持靜齋の兩鈔本を得て梓行せり。以て明代藏書の大略を見るべし。

以上四種は近刊適園叢書中に收む。〔有高〕

◎清朝書畫譜　一大册　文學博士　內藤虎次郎編

昨年我が京都帝國大學にて開設せられたる夏期講演に於て內藤博士が清朝史通論を講せし際、博士が參考材料に供せむ爲め諸方面より蒐集し嚴正なる鑒識の下に審査展觀したるものをコロタイプ版に附したるものなり。書畫共に清朝文化を代表せる一代の傑作、書は最近物故せし楊守敬、現存せる吳昌碩に至る迄五十七家。畫は所謂四王吳惲の六大家より閨秀をも加へて八十七家皆其の面目躍如たり、尙簡潔なる說明を附し清朝二百餘年の名家展べて百四十頁の中に在り。所謂文化史的方面研究の好資料たり（定價六圓五十錢　油谷博文堂發行）〔那波〕

◎南宗衣鉢及跋尾　羅叔言輯述　長尾雨山譯

繪畫界空前の大著述なりと稱せらるる此の册子は羅叔言氏が現今迄に存在せる支那畫の實物に就て流派を分ち系統を繹ねて論述せるものの第一卷なり、卽ち六朝一點、唐朝三點、五代八點、凡てコロタイプ精版にして、體裁は立幀と長卷とより成り、跋尾は別に一册となれり、是亦支那文化史研究の好材料たり、第二卷以下續々出版の豫定の由。（第壹卷　立幀十種一套、長卷二種、定價合計十七圓　油谷博文堂發行）〔那波〕

◎Antoine Guilland: Modern Germany and her historians. (London, 1915)

史學研究熱の旺盛史的思想の發達が實社會に及ぼせる影響勢力の最も顯著なる適例は、これを十九世紀に於ける獨逸統一事業に貢獻せる獨逸史家の勳功に求めざるべからざるなり。而して彼等史家の事業はかの一部人士の信ずるが如く、史學を或實際上の目的に隷屬せしめ單にこれが方便手段として活用せらるゝことにより始めてその實効を收め得べきのみとする僻見を斥け、飽迄科學的立脚地に據る所の獨立自由なる史學研究が實社會の時代潮流に寄與する感化力の決して鮮少ならざる實例を示すものといふべし。かのニーブール、ランケ以後の史學者の研究事業は實に這般の消息を示すものにして、是等歷史家と時代との密接なる關係を辿り、獨逸帝國思想發展の徑路を尋ぬるは極めて興味深き問題たるを失はず。本書は如上の近代獨逸と史學者との關係卽ち獨逸史家が國民の實生活に史的思想を注入し帝國統一事業を喚起せしめたる所以を說述せるものなり。著者は先づ序論に於て十九世紀初頭に於けるプロシアの國民的思想勃興より說き起して、これと關聯せる